



第 8 回幹細胞若手の会 (つくしの会)

日時： 2019 年 5 月 24 日 (金) 9:30~11:30

場所： 淡路夢舞台国際会議場 (兵庫)

○ はじめの挨拶 梅本晃正 (熊本大学)

○ 演題発表 (15 分口頭発表 + 質疑応答 5 分)

【演題 1】 小山 (中島) 明 (京都大学 iPS 細胞研究所)

「Transcriptional profiling of aged intestinal stem cells, progenitor cells and the stem cell niche」

【演題 2】 浦西 洸介 (埼玉医科大学ゲノム医学研究センター)

「ES 細胞における Mga の DNA 結合部位特異的ターゲットの同定、および PRC1.6 複合体の動態変化の検証」

【演題 3】 北村 友佳 (埼玉医科大学ゲノム医学研究センター)

「PRC1.6 複合体の機能破綻を介して減数分裂を誘導する可能性のある生殖細胞特異的 Mga バリエントの同定」

【演題 4】 白川 裕貴 (熊本大学)

「リボゾームタンパク RPS6 は、膠芽腫におけるがん幹細胞様形質獲得を制御する」

【演題 5】 比嘉 綱己 (九州大学 生体防御医学研究所)

「静止期維持因子 p57 を指標とした胃底腺幹細胞と造血幹細胞の系統追跡」

【演題 6】 佐田 亜衣子 (筑波大学生存ダイナミクス研究センター)

「幹細胞の老化を糖鎖から紐解く：糖鎖プロファイリング技術を利用した幹細胞老化バイオマーカーの同定とその応用」

○ 終わりの挨拶 馬淵洋 (東京医科歯科大学)

○ 集合写真撮影

13:00~ 幹細胞シンポジウム Opening Remarks

つくしの会 企画・運営担当 梅本晃正(熊本大)、久保田翔(熊本大学)、橋本倫拓(熊本大学)、林慶和(熊本大学)、馬淵洋(東京医科歯科大)



第 8 回幹細胞若手の会（つくしの会）抄録

2019 年 5 月 24 日（金） 9:30～11:30（淡路夢舞台国際会議場・兵庫）

【演題 1】 小山（中島） 明（京都大学 iPS 細胞研究所）

「Transcriptional profiling of aged intestinal stem cells, progenitor cells and the stem cell niche」

腸上皮の優れた恒常性は腸上皮幹細胞によって維持されている。腸上皮幹細胞の加齢変化およびその分子機構については未解明な部分が多い。我々は、腸上皮の加齢変化について、組織・細胞レベルでの解析を行った。さらに、幹細胞、前駆細胞、幹細胞ニッチ（パネート細胞）における遺伝子発現の加齢変化を RNA シーケンシングにより解析した。本発表では、網羅的遺伝子発現解析から得られた知見について報告したい。

【演題 2】 浦西 洸介（埼玉医科大学ゲノム医学研究センター）

「ES 細胞における Mga の DNA 結合部位特異的ターゲットの同定、および PRC1.6 複合体の動態変化の検証」

我々は、非典型的な PRC1.6 複合体の構成因子である Mga が、ES 細胞および、GS 細胞で減数分裂関連遺伝子の抑制に深く関与していることを報告している。本発表では、ES 細胞において、Mga が含有する 2 種類の DNA 結合部位のノックアウトを行い、新たに得た知見を報告したい。

【演題 3】 北村 友佳（埼玉医科大学ゲノム医学研究センター）

「PRC1.6 複合体の機能破綻を介して減数分裂を誘導する可能性のある生殖細胞特異的 Mga バリエーションの同定」

我々は非典型ポリコーム抑制複合体 PRC1.6 が、ES 細胞において減数分裂に対し非常に強力な抑制因子として働いていることを報告した。さらに興味深いことに、PRC1.6 の構成要素である Mga において生殖細胞特異的に DNA 結合ドメインを欠如したバリエーションが作られることを発見した。今回は ES 細胞を用いてこの変異型 Mga の機能に新知見を得ることができたので報告したい。

【演題 4】 白川 裕貴（熊本大学）

「リボゾームタンパク RPS6 は、膠芽腫におけるがん幹細胞様形質獲得を制御する」
膠芽腫は最も悪性度が高く予後不良な脳腫瘍であるが、その要因としてがん幹細胞様細胞（GSC）の存在が知られている。本研究では、GSC 発生メカニズムの解明を目的に、膠

芽腫組織に高発現しているリボゾームタンパク RPS6 に着目し、GSC 形質獲得における RPS6 の生物学的意義の解明を行った。

【演題 5】比嘉 綱己 (九州大学 生体防御医学研究所)

「静止期維持因子 p57 を指標とした胃底腺幹細胞と造血幹細胞の系統追跡」

p57 は造血幹細胞特異的に発現するサイクリン-CDK インヒビターである。p57 をマーカーとした系統追跡実験により、胃底腺幹細胞の同定および in situ での造血幹細胞の挙動解析が可能となった。プレリミナリーな知見も含めて発表させていただき、幹細胞研究者の皆さまのご意見を伺いたい。

【演題 6】佐田 亜衣子 (筑波大学生存ダイナミクス研究センター)

「幹細胞の老化を糖鎖から紐解く：糖鎖プロファイリング技術を利用した幹細胞老化バイオマーカーの同定とその応用」

細胞表面の糖鎖は「細胞の顔」とも呼ばれるように、細胞の種類や状態によってダイナミックに変化することが知られている。我々は、老化幹細胞の糖鎖をターゲットとし、それを制御することで、新しい老化遅延・予防法の開発にもつながっていくのではないかという仮説のもと、研究を進めている。糖鎖プロジェクトは、自身にとって新しい分野であるので、つくしの会の皆さんとディスカッションできると大変うれしい。

【会場】兵庫県 淡路夢舞台国際会議場

会場案内

第17回シンポジウム会場案内(→Access Map (English))

淡路夢舞台国際会議場
〒656-2306 兵庫県淡路市夢舞台1番地
TEL : 0799-74-1020 FAX: 0799-74-1021
HP: <http://www.yumebutai.org/index.html>



(C) 2006 Awaji Yumebutai International Conference Center.